

令和 8 年 5 月 2 6 日

熊取町議会議長 様

ふれあい広場閉鎖回避ならびに代替策早期実現に関する要望書

団体の名称	熊取子ども達の未来を考えるチーム
代表者の氏名	根木 圭子
団体の所在地	熊取町新野田 1－1－15
提出者	折笠 翔

趣旨及び理由

中央小学校区(以下、「当校区」という)において、すまいるズ煉瓦館に隣接する歴史公園の工事が続くなか、近隣に代替となり得る公園がないにもかかわらず、多くの児童や地域住民が利用する「ふれあい広場」が事前周知もなく6月に閉鎖(以下、「当該閉鎖」という)されることを知り、5月より署名活動(以下、「本署名」という)を開始しました。

当該閉鎖は、当校区の児童ならびに未就学児とその保護者が安心して利用できる公園、高齢者に至るまで、長きに亘り生活の一部であった場所を突如として奪うものであり、その結果として、住民の心身の健康を阻害し兼ねず、“ほほえみ子育て熊取町”を謳う町に対する地域住民の不信感を助長するものと判断します。

この決定自体は町の直接的な判断でないと理解しつつ、当校区において重要な役割を果たす公園を閉鎖するに至る間接的要因となった借地契約の終了・町の土地購入断念、区長を含む住民側および学童の意見が適切に扱われなかった経緯(注1)、また本署名の結果に鑑み、自治体としての誠意ある対応として下記事項を要望します。

尚、この度の提出が陳情・請願でなく要望に留まり、本署名も法的効力を持つ正規の方式を採るに至らなかった理由として、地域住民の生活に多大な影響を及ぼし得る事案にもかかわらず、偶然かつ直前に情報を入手した一住民が、直ちに活動を開始せざるを得なかった点をお含みおきいただきますようお願い申し上げます。

注1：2頁に署名活動の中で知り得た情報を記しております。併せてご査収ください。

要望事項

記

1. ふれあい広場閉鎖の回避策の再検討
2. 閉鎖が止むを得ない場合、子どもを含む地域住民への経緯説明会の実施
3. 代替公園としての中央小校庭開放拡充の早期実現(時間・利用者・用途の拡大)

補足情報(経緯および疑念)

※以下の内容は一町民が活動の中で、複数の町議会議員様、関連団体様から直接・間接的に知り得た情報であり、可能な限り証拠を集めた上で記しております。

昭和 63 年に「ふれあい広場」として町と借地契約を結んだ地権者様が、その後も公園として維持管理を継続され、諸般の事情により当地を含む不動産の処分を 2025 年 5 月頃より検討。(新築物件に「売物件」と掲示されていることに、私含め近隣住民は違和感を覚えたためよく憶えています。)

当地を公園として存続できるよう熊取町へ購入を打診、仲介された不動産業者様より交渉に際し「遊具側のみの売却」を提示するも、道路公園課(以下、担当課)からは明確な返答もなく、再三催促して漸く同年 11 月頃には買わない旨の回答があったと聞き及んでおります。(5 月 8 日)

5 月 19 日の事業説明では担当課より、「いずれからも価格の提示はなかった」という旨の報告があったそうですが、価格の提示なく交渉や判断が進められることは想像に難く、もし事実ならば「積極検討したが価格が折り合わなかった」という町長の発言(5 月 1 日)と矛盾します。

2025 年 5 月頃および同年 11 月には五門区長が担当課からの連絡を受け直接訪れた際、ふれあい広場閉鎖の可能性を示唆され、祭礼時の代替駐車場、煉瓦館閉鎖中の子どもたちの遊び場に関し意見を述べ進捗報告も求めましたが、特に連絡もないまま 3 月末に別件で訪れた際に尋ねて初めてほぼ閉鎖確定という回答を得たとのこと。先代から地権者様と懇意にされており、経緯も把握した上で公園閉鎖に断固反対したそうです。(5 月 10 日)

同じく不利益を被る中央学童に関しては、5 月に入ってから町の保育課から閉鎖の確定連絡を初めて受け、異議を唱える猶予は与えられなかったとのこと。 (5 月 19 日)
野田区については短期間で聴取できるルートを確認できませんでしたが、少なくともこの 2 組織からの聴取内容に反し、担当課から議会へ「特に意見なし」と報告されています。課内でも課長からは同様の報告であった旨の情報を得ています。(5 月 24 日)

見えてきた矛盾や不誠実な対応は認められるものの、5 月 1 日の町長との面談において、中央小学校校庭の開放拡充という代替案に向けた署名活動をご了承いただき、同 2 日から周知拡散を開始しました。5 月 26 日現在で 912 筆の署名が集まり、個別の意見も多く寄せられています。詳細は次頁以降の署名概要と個別意見をご参照ください。

■署名進捗（5月26日現在）

・開始時期：5月2日

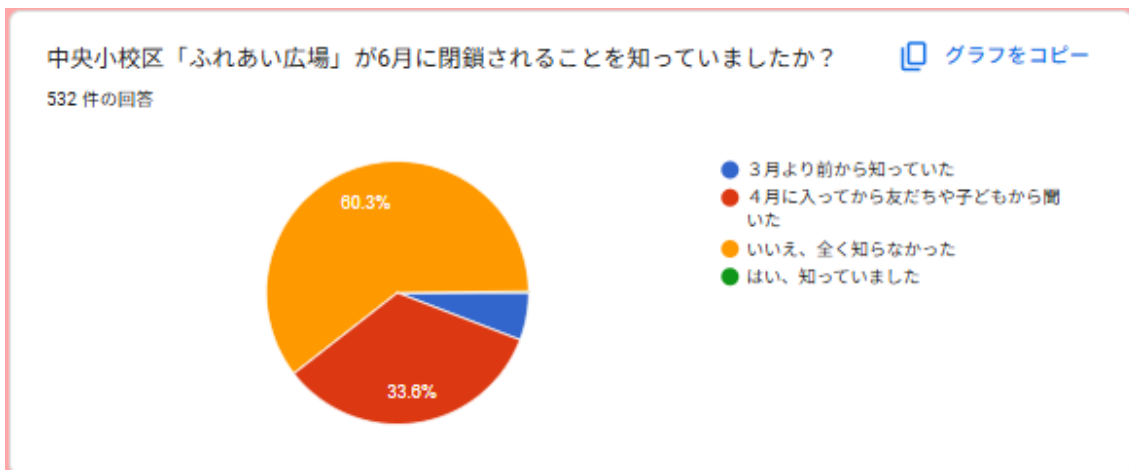
・署名筆数合計：912筆

電子署名：532筆 SNS・チラシ配布による拡散

紙署名：380筆 近隣商店・イベントでの記名

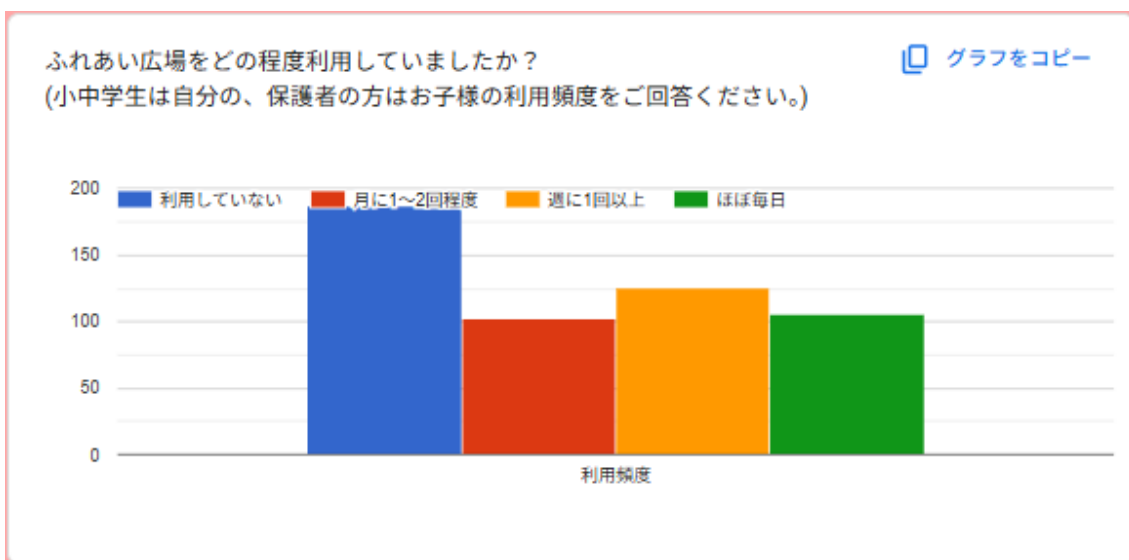
■電子署名概要

1. ふれあい広場閉鎖の認知



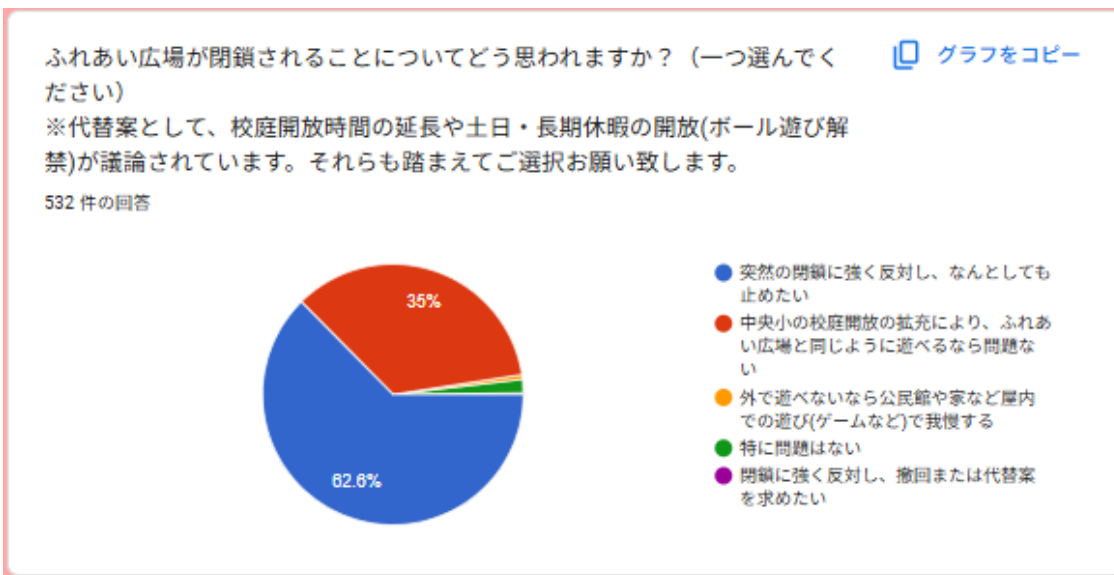
全く知らなかった方が約6割、4月末からの積極周知で知った3割も含め、94%がそれ以前に閉鎖を知らなかったことから、重要な公園にもかかわらず周知されていなかったことが読み取れます。

2. ふれあい広場の利用頻度（平均利用人数）



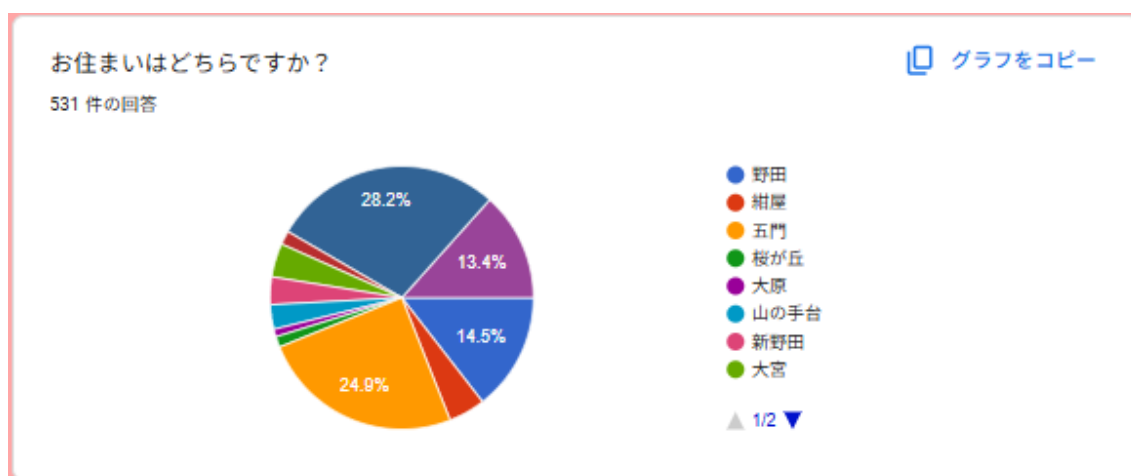
100名以上が「ほぼ毎日」利用する公園を閉鎖(に至るかも知れない判断自体)、これは相当な妥当性がなければ不適切と判断されるはずです。週1回以上も含めると日々120名が利用している計算になります。

3. 閉鎖に対する住民の意識



今の子ども達だけでなく、かつての学童期の思い出が詰まった公園という話も多く耳にします。反射的に「絶対反対」と回答した方も、十分な説明により代替案に納得し得るものと思います。

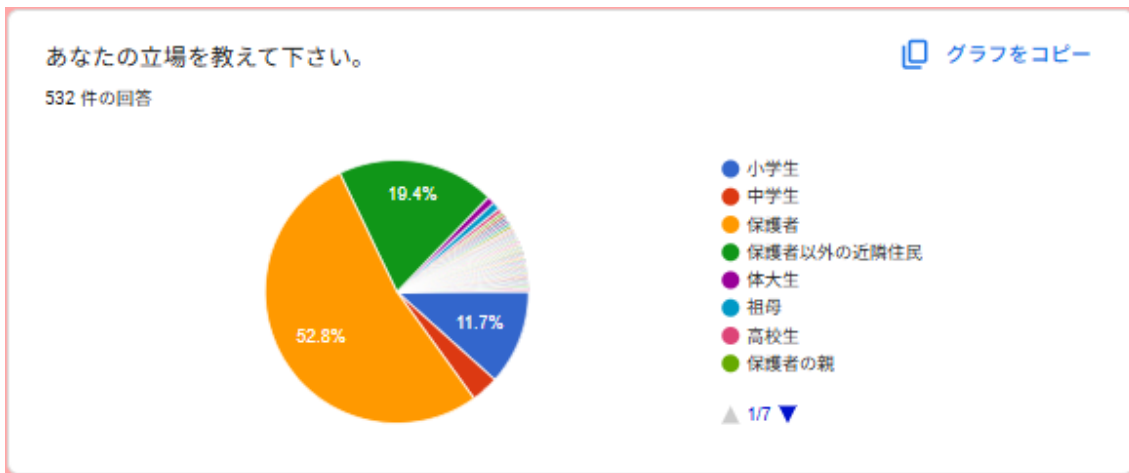
4. 署名者の分布①(地域)



紺色は熊取町の他校区、紫色は熊取町外ですが、そこには中央小児童の祖父母、進学・就職で町を離れた親族も含まれるため無関係ではありません。

※五門・野田以外、対象世帯が散在していて配布しきれていない地域もあります。

5. 署名者の分布②（立場）



小中学生の比率はスマホ未所有などの事情も絡み約 20%に留まっていますが、代弁者として保護者や祖父母が積極的に動いてくれています。保護者以外の近隣住民からの署名も多く、子の有る無しにかかわらず地域の重要な公園であったことが読み取れます。

表示しきれていない項目として、利用児童の兄弟や親族、近隣店舗関係者、高校生、体大生、長生会、公共団体職員・教職員からもご署名いただいています。

6. 個別意見（抜粋）

- ・ もっと早く教えて欲しかったしあまりにも急すぎます。その点に関してはとても憤りを覚えております。
- ・ いつも前を通ると子供達がパワー全開で遊んでいる姿をみてほっこりしてました。
- ・ 田んぼが無いことが当たり前になり、次は公園が無いのが当たり前になってしまうの？
- ・ 中央保育所の子ども達にとっても安心して遊べる公園で広場です。
- ・ 校区外の自宅からも通わせていただいています。残すかたちで進めていただけることを切に願っています。
- ・ 高齢者の集まる場所の方に重きを置いているとこれまでも住んでいて感じていました。まるで「有権者重視」、熊取町は高齢者の町です。
- ・ 五門に公園出来たが、ベンチしかない、日陰もない、道中車の通りが多いので子供の遊ぶ場所が実質ない状態。
- ・ 何でもかんでも潰すのであれば理由書け。あとしょうもない理由で潰すな。行政の考えてる事意味わからんねん
- ・ 学童でも遊んでいるからふれあい広場が無くなるのは嫌。あの遊具が好き。
- ・ 子育ての町をうたってるわりには配慮が感じられない。普段使い出来る場所こそ必要。
- ・ 経緯もわからないままだったところに、丁寧な情報提供をいただけるこういった活動には頭が下がります
- ・ 県外からこちらに引っ越してきましたが熊取には遊び場が本当に無いと感じています。

- ・子育てしやすい町と聞いて引っ越してきましたが…えっと…どこが？これでは熊取で子育てしたいと思わないですね。残念です。
- ・熊取には児童館も無い。夏休みのプール開放や長期休暇の学童保育の廃止、子どもの居場所遊び場所の重要性について町としてどうお考えなのか聞いてみたい。
- ・校区内で一年生でも待ち合わせ場所にしやすい場所として、ふれあい広場があります。約束していない日も行けば友達がいる、自然と友達の輪が広がる貴重な場所です。
- ・広報等で町民の意見募集や寄付等のアクションが出来たのでは無いかと思う。
- ・スマホ時代の今このままでは子供たちは外で遊ぶ習慣がなくなることも懸念する
- ・煉瓦館のグラウンド代わりの広場もあるが、そこまでの道も子どもだけで行くには危険
- ・ふれあいが無くなればこどもの遊び場が無くなり放課後の行き場所が無くなります。住民の声をもっと聞いて下さい。
- ・子育てに優しい町だと聞いていたのに今や泉佐野の方が優しい。
- ・住み良い、子育てしやすい熊取町を掲げるのなら煉瓦館を含め、なぜこうも子供達から遊び場を奪うのか。何も考えてないのではないか。
- ・代替場所がないのであれば、校庭開放は賛成ですが、教職員の負担にならないようにしなければならぬと思います。
- ・野田地区など周辺地域も巻き込んで校庭開放の充実がより深まっていくといいです。
- ・動画やゲームなどに依存しないためにも、友達と思い切り安心して遊べる場は残していただきたいです。
- ・熊取町は子育てに優しい町と言ってるが全然優しくない。いろんな制度が良くなってきている泉佐野市を見習ってほしい。
- ・閉鎖するならきちんと同じように遊べる場所を作って欲しい！どれだけの子どもたちが公園が大好きか知って欲しい！これからの子どもたちのためにも！
- ・子どもたちの遊び場・憩いの場への積極的な資金投入をお願いします。間接的な少子化対策となると思います。
- ・キターネホールやブルーベリー農園など町民の利用頻度が少なく、子供達が通いにくい場所に投資するのではなく、町民が本来必要とする場所や設備に投資していただきたい。
- ・自分達で放課後行ける距離、みんなと会える場所が絶対に必要だと思っています。

校庭開放拡充に向けた周知拡散を心掛けましたが、やはり閉鎖自体への反対の声が大半を占めています。広報不足、“ほほえみ子育て”との矛盾、近隣自治体との比較、予算の用途についての指摘も散見されます。今回の経緯や子ども達の居場所の考え方について、町としてしっかりと町民に示していただくこと、また閉鎖回避策の再検討、校庭開放拡充に関し確実に進めていただくことを強く求めます。

以上